



選考委員特別賞
最相葉月賞

カスミサンショウウオが

教えてくれたこと

石本 光歌子

小3女子しんけんです。

少し「サンショウウオ」の紹介をします。

サンショウウオと聞くと、生きた化石と言われている「オオサンショウウオ」をそうぞうすると思います。大きさは1mくらい。

しかし、オオサンショウウオ以外のサンショウウオは、大人の手のひらに乗るくらいのが大きいです。本には15cm以下と書いてあることが多いです。温度が低い林の中で生活しています。夜行性なので、昼間は、ほとんど姿を見ることができません。生たいはナゾとされています。

カスミサンショウウオもナゾだらけです。なのに、かんきょうしょうは「ぜつめつきぐ2るい」に指定しています。かごしま県では、県の天然記念物になっています。

ナゾを調べたいのに、くわしく教えてくれる本は見つかりませんでした。カスミサンショウウオと同じよう

今年の自由研究は、去年よりもずっと進化した作品になりました。

だいなは「カスミサンショウウオ」

あまり知られていない小さな生き物です。この小さな生き物も、地球の大切な一部だということを知ってほしくて書きました。そして、カスミサンショウウオと出会ってから、私は成長し、進化していることに気づきました。いろんなことを知って、考え、たたかい、進化していたのです。

に、ぜつめつきぐ2るいのホッキョクグマやジンベエザメの本の方が見つけれそうです。

女の子なのに両生るいが好きなの？

まだ3年生なのに変な子・・・。

と思う人は、いいと思います。

ナゾとされている生き物に、きょうみを持っている人は、何を考えているのか、わからないから「変」と思われることくらい知っています。でも、自由研究くらい、何を考えても、勉強しても、いいと思うのです。

勉強したものを発表したっていいでしょ！と、心の中で何回さげんだかなあ、泣いたかなあ、わすれました。

今の私は、なんとかできそうなので、わすれたことになりました。

だって、私には強い味方がいます。おうえんしてくれる人もいます。それに、少しの勇氣と「努力できる力」を持っていますから。

カスミサンショウウオと出会う前の私。

1年生の6月ごろから学校に行くことができなくなりました。学校でのことを話そうとしても、思い出すと体が動かなくなつて、話そうとしても言葉を見つけないことのできませんでした。

庭で遊ぶことができなくなりました。

ドアを閉めることができなくなりました。

どこにいてもこわくて、できなくなることがいっぱいになりました。今も、どう話せばいいのか、どの言葉を使えばいいのかわかりません。いろんなことが苦しかったです。

夏休みの終わりごろ、テレビでいじめのことを話す森三中の大島さんを見ました。大島さんは、私と同じようなことをされた時のことを話していました。

どうして、あんなやつらのために苦しい思いをしないといけないのか。と、くやしくて、はらが立って言葉にしました。

「私も同じ、同じことされた！」

と、母にテレビを見せました。それから、学校でのことを話しました。大人たちのことも。そして、あの学校には、もうぜったいに行かないと決めました。

何日かして、母は言いました。

「何でもよかけん書いたら？」

母も私も「何でもよか」という言葉が大キライです。

でも、この日の「何でもよか」は、とっでもうれい言葉でした。なぜか母を困らせたくて、ゴロねしている母を書きました。

トドのようにねころがって、テレビを見ながら、おかしを食べる母の姿。説明文つき。今もげんかんにかざっています。

絵を見た母の顔は、面白かった。

いつもの、あのわらい顔だけど……。

「あーいたたっ、あーいた！」

おなかおさえて大笑い、なみだが出ていました。下手な絵だけど、それを見ると、あの時のことを思い出して、心がニッコリになる絵になりました。

転校しても、学校へ行くことができませんでした。私にとって学校は、こわい場所だったからです。行くことができない理由は、ちゃんとありました。ただ上手に言うことができなかったのです。

いろいろ大変だった1年生の冬。

カスミサンショウウオに出会いました。

いつも行く、さが県立宇宙科学館の野外かんさつ会で出会ったのです。

かんさつ会が始まる前は、生き物に会えると信じていませんでした。だって、耳と鼻がキューツとつめたくなって鼻水が出る、とても寒い日だったのです。

科学館を出て、川をわたって、林の中の水場を見ると、白いカードが何本もおいてありました。何だろう？と近づいて見ると、番号が書いてありました。その近くにグルグルまきソーセージのような物が見えました。

「先生、あれは何の実ですか？」

と科学館の先生にしつ問すると

「カスミサンシヨウウオのたまごです。」

と言って、つめたい水の中から出して見せてくれました。近くで見ると、とう明で小さいバナナの形をした、たまごが2本、枝にくっついていました。中には灰色のつぶつぶが入っていました。

「さわってもいいですか？」
と先生に聞くと

「やさしく、さわってくださいね。」
と、私の前に出してくれました。

サランラップにつつまれたように見えるたまごをさわりました。うすいビニールぶくろに水を入れて、下からさわった感じでした。やぶれると、たまごが死んでしまいかもしれないと思って、息を止めてやさしく、少しだけさわりました。

たまごのせつめいの後、カスミサンシヨウウオ探しが始まりました。

つめたい水の中を探します。えだや落ち葉の下、石の下などにかくれています。落ち葉を少し動かしただけで

ドロと水がまぎって何も見えなくなりします。

「どこにいるかなあ〜」

と先生は落ち葉をすずかにめくりました。するとサンシヨウウオは、おどろいてちがう葉にかくれようとしました。でも、先生の手が速かった！「ス〜ツさっ！」と両手ですくいました。

はじめて見たカスミサンシヨウウオは本当にふしぎでした。目はクリクリ。皮ふはナマコのようにツルツとしています。姿は……。母は「ぜったいイモリの方がにてる」とよく言います。ですが、私は野生のイモリを見たことが無いので、ここでは「トカゲやヤモリに、にています。」にします！

体の特ちょうをかんとんにせつ明すると、肋条というゴトゴトした部分（むね／＼胴）が目立つ。色は、黄土色から黒っぽい色まで個体さがあります。

私は、はじめて見たサンシヨウウオがさわりたいくなりました。気持ち悪いと思わなかったのです。さわったら

ダメと言われるかもと思いながら先生に聞きました。

「先生、さわってもいいですか？」

先生はニッコリわらって、わたしの手にカスミサンシヨウウオを乗せてくれました。

落とさないようにしなきゃ。じっとしずかにしていれば大丈夫よね。心ぞうの音が手から聞こえるくらいドキドキしました。その時、サンシヨウウオがドキドキしていることに気づきました。本当にサンシヨウウオの心ぞうのドキドキが、私の手に伝わったのです。

つめたくて、動くとツルツルクニユクニユして、くすぐったかった。心もくすぐられたような感じでした。

カスミサンシヨウウオと出会ってから、毎週のようにかんざつに行きました。

かんざつ場所は、とてもしずかで音がありません。水面はガラスのように木や草がうつって、サンシヨウウオを見つけるのは大変です。なので、見つけるコツを少しだけ教えましょう。

「カスミサンシヨウウオ探しのコツ」

※しずかに、ゆっくり動くのが基本です。

①黄色の線が入った部分(尾)を探す。

②落ち葉を一枚一枚めくってもどす。

③音を出さないようにする。

④水がゆれないようにする。

野生の生き物なので、見つけれない時もあります。

身のきけんを感じてにげていることもあるので、あきらめることも必要です。

カスミサンシヨウウオは、ほかの生き物たちが活動しない、寒い時期にさんらんします。うむ場所をえらんでいるようで、去年とちがう場所にうむこともあるそうです。私は、子そんをのこすための「知え」なのではないかと考えています。

カスミサンシヨウウオだけではなく、ほかの生き物たちも、きびしいかんきょうで生きるための知えを持っています。生き物たちのけいけんから、知えをつけ進化しているのではないかと思います。

ところが、生き物たちの知えやけいけんだけでは、どうにもならないことがあります。それは人間です。人間は、どれくらい生き物たちをぜつめつさせただけでしょう。か。ぜつめつさせた原因を知っているのでしょうか。

私を知っている原因は、

「自然をこわすこと」「気候の変化」

「外来種のしん入」など、たくさん。

人間が生きるために必要なことも原因になっていきます。べんりな生活ができるようになるのは、いいことだと思います。でも、少しだけ考えてほしいのです。人間が生きるために必要なことと、自然のバランスを考えてほしいです。

人間も生き物たちも自然のバランスの一部、地球の一部なのだと考えています。たった一つ無くなったくらいと思う人もいるかもしれませんが。しかし、ぜつめつした生き物の一つだけではありません。これまでに多くの生き物たちがぜつめつしたのです。

みなさんにしつ問です。

「地球はだれのものですか？地球をこわしているのはだれですか？」

きっと、いろんな答えがあつて、どれもが正しいと思います。

去年、読んだ（たのしい！科学のふしぎなぜ？どうして？3年生）には「あと40年で地球からねったい雨林がなくなってしまうといわれています」と書いてありました。世界中のジャングルが消えて、生き物も消えてしまうのです。

私の宝物の一つ。ボルネオ島の「テングザルとボルネオゾウ」のしゃんを見ると心配になります。もし、あと40年で地球上のジャングルが消えてしまったら、この生き物たちの生きる場所が無くなります。生きることさえもできなくなるのです。そうすると「ぜつめつ」しないのでしょうか。

子どもの本にそう書かれているから、本当のことなの

でしょう。子どもに知ってもらうのは必要です。でも、大人たちにも知ってもらわないと、今の子どもが大人になって考え出して・・・間に合うのでしょうか。

かんさつを始めて2回目の冬。

私にできることを見つけました。カスミサンショウオオの本を書くことです。

「もうこれ以上、生き物たちの生きる場所をこわさないでください。」

と、今の私には大声でたたかう勇気を持っていません。でも、書くことならできます。知ってもらうことなら、できるかもしれないと思いますのです。きっと、大人も知ることができたら、少しくらい考えてくれると思いますのです。気づいてくれる人は、少ないかもしれませんが「ゼロじゃない!」と、今も信じています。

本を書き始めて一番大変だったのは、かんさつメモをまとめることでした。1年生の下手な字を見て思い出さないといけないのです。サンショウオオのナゾより「メ

モのナゾ」をかいいいしなないといけません。

何の計算? かけ算の筆算式のナゾ。

「わからん」とクレヨンで書いたナゾ。

1年生の私! 何がわからんやった?

こんな時は、シャーロックホームズになりきって、助手と記おくの引き出しを開けるのです。ホームズはパンコンが苦手なので助手に助けてもらいました。

式は、水場のらんかいの数×成長しそうなたまごの数
⇨ふ化するサンショウオオの数。むずかしい計算をしようとしたのです。

自然の中で生きのこる数を知りたかったようです。式を考えて計算してみたら、わからなくなりましたのでしょう。今の私にもむずかしい計算です。1年生で、よくちようせんしたなあと思います。

今年の4月からは、図書館へ行くことがふえました。両生るいの図かん、絵本、レッドデータブック、かんきょう、きょうりゅうなど、いろんなジャンルの本を読みました。もちろん作文の書き方の本も読みました。ど

う書けば読んで考えてもらえるのか、たくさん考えました。そして両生るいの進化についても調べ始めました。人間と両生るい、どちらが先に地球の住人になったのかも。

夏休みが終わる1日前、完成しました。やっと、小さな生き物との出会いが、作品になったのです。

出会ってから、いろんなことがありました。できるよ
うになったことがふえたのです。

かんたんじゃなかったけど、学校に行くことができるようになりました。そして、転きんした校長先生と「考えて努力する力」をピッカピカにみぎました。

3年生になった1日目。これでもかっ！というくらい
の勇気を出して、きぼうを心にたくさんつめて教室に行
きました。

けっかは・・・。2日目休みました。時どき休む日がある
けど、がんばって教室で勉強しています。

だって、去年の私より今の私。きっと未来の私は、

「今の私より進化している」と信じられるようになった
からです。1年生の私より今の私の方が、けいけんによ
る知えを持っています。カスミサンショウウオが、私に
生きる知えや進化する勇気を教えてくれたのだと思いま
す。

私は私しかいません。私は私にしかできないのです。
自分を信じ、私を一生けん命する気持ちを、ずっと持っ
てたいです。

《カスミサンショウウオ（和名）》

学名 ヒノビウスネブロス

分るいぐん 両生るい

目名 有尾目

科名 サンショウウオ科

祖先 イクチオステガ

もし、小さな生き物に出会ったら、さわがないでくだ
さい。しずかに見守ってくれと、うれしいです。